

海風の夏季都市気温緩和効果に関する研究 —気温の長期多点同時測定と観測風データに基づく分析—

日本建築学会環境系論文集/ No. 623/ pp. 93-99/ 2008年1月

正会員 十二村 佳 樹 君

海風の気温緩和効果に関して都市全域を吹走する海風の効果に言及した研究は少ない。本論文は、地方都市（仙台市）において、独自の気温観測網の構築に基づく海風の都市気温緩和効果を面的に定量化した結果を報告したもので独創性がある。また、海風の気温緩和効果を面的に定量化する手法を開発したことは、都市が海に臨む我が国において都市環境を検討していく上で将来性があるといえる。40点での同時測定を継続的に行い、5年間の夏期気温データと風データを分析し、①海方向から吹く真夏日と②西風が吹く真夏日の2種類があることを明らかにした。本研究の成果は、多くの都市で海風の効果を定量化し、良好な都市環境を形成していくために貢献しうる点で高く評価できる。